

国語 第1学年 おはなしをよもう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍『新編 新しい国語（令和6年度版）』の9月～10月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

サラダ作りに関わる人物がどの順に現れ、何を知らせたかを確認める。繰り返されるやり取りを楽しみながら、同じところと違うところを行動の言葉から捉える。単元の終わりに残すのは、場面カード。人物、行動、伝えたことを自分の絵と言葉で表し、順に並べて物語を説明する。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)ウ	ウ 長音，拗《よう》音，促音，撥《はつ》音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(2)ア	ア 共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。
〔第1学年及び第2学年〕C 読むこと(1)イ	イ 場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。
〔第1学年及び第2学年〕C 読むこと(2)イ	イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動。

単元の目標

句読点やかぎの働きを確認め、出来事の順序と同じところ・違うところに気付ける。場面ごとの人物の行動を確認め、出来事の順に物語の内容の大体を捉えられる。言葉の働きを確認め、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①句読点やかぎの働きを確認め、出来事の順序と同じところ・違うところに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ウ・〔知識及び技能〕(2)ア）	①「読むこと」において、場面ごとの人物の行動を確認め、出来事の順に物語の内容の大体を捉えている。（C(1)イ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

東京書籍の年間指導計画による全9時間（読む9）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文の読み聞かせを聞き、登場する人物を確かめる。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3	○前半の場面で、誰が来て何を知らせたかを読む。	知①（語句や内容の整理）
	4～5	○後半の場面を読み、前と同じやり取りと違う内容を探す。	学習状況を見て支援する。
	6 （本 時）	○場面カードを順に並べ、人物と行動の対応を説明する。	思①（発言・学習記録）
	7	○好きな場面を音読し、言葉から人物の行動を確かめる。	学習状況を見て支援する。
	8	○場面カードで物語を紹介し、友達の質問を受ける。	学習状況を見て支援する。
第3次	9	○出来事の順と繰り返しの面白さを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：場面ごとの人物の行動を確かめ、出来事の順に物語の内容の大体を捉えられる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この場面では、誰が来て、何をしましたか。前の場面と同じところと違うところは何ですか」 【めあて】サラダ作りに関わる人物がどの順に現れ、何を知らせたかを確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・来る相手が変わると、知らせることも変わる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「この場面では、誰が来て、何をしましたか。前の場面と同じところと違うところは何ですか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・来る相手が変わると、知らせることも変わる。 ・似た言い方でも、その相手ならではの内容がある。 ・順番に並べるとサラダ作りの様子が分かる。	登場人物・したこと・知らせたことを場面ごとのカードにする。長い会話は語のまとまりで音読し、句読点やかぎの役割を確認する。調理の実施を前提にしない。 想定する難しさ：人物の登場順を取り違える。料理の材料を覚えるだけになる。児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 場面ごとの人物の行動を確かめ、出来事の順に物語の内容の大体を捉えている。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・順番に並べるとサラダ作りの様子が分かる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この場面では、誰が来て、何をしましたか。前の場面と同じところと違うところは何ですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、人物の登場順を取り違える。料理の材料を覚えるだけになる。この場合は、登場人物・したこと・知らせたことを場面ごとのカードにする。長い会話は語のまとまりで音読し、句読点やかぎの役割を確認する。調理の実施を前提にしない。おおむね満足できる状況は、場面ごとの人物の行動を確かめ、出来事の順に物語の内容の大体を捉えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ 場面カード。人物、行動、伝えたことを自分の絵と言葉で表し、順に並べて物語を説明する。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。
交流と見直しの記録 交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：東京書籍 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。(https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_1_202503.docx)／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo) LINEオープンチャット
みえ先生ラボ
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

